

## 故吉田壽壽氏を偲んで

公益社団法人物理探査学会の名誉会員であり、日本物理探査株式会社の第四代社長でありました吉田壽壽氏が1月20日にご逝去されました。享年97歳でした。

吉田氏は、戦後間もない昭和21年に弊社に入社されました。当時は弾性波探査の黎明期であり、数多くの弾性波探査の現場に携わり、その有効性を実証し、弾性波探査の発展に多大な貢献をされました。氏の記録によりますと1946年から1960年までの15年間にご自身が関わった弾性波探査は、日本全国のダム、トンネル、津軽海峡や関門海峡などの海底岩盤調査、海外ではフィリピンのマニキラダム、マニラ鉄道、カンボジアのメコン川ダムなど165地点、探査総延長495kmに上るとのことです。



1969年 メコン川ダム調査



メコン川を楽しむ吉田氏

私が入社した昭和49年には吉田氏は直接現場に携わることはなく、豊予海峡リフラフォン探査、スエズ運河拡張工事磁気探査、大飯原子力発電所広域弾性波探査などの現場に視察に来られ、いろいろな質問、ご指導を頂いたことを懐かしく思い出します。



スエズ運河を渡る貨物船



カイロ観光中の吉田氏 ロレンス？

天寿を全うされた吉田氏は、物理探査のパイオニア諸氏と天国で数多くの現場での思い出を語り、探査技術の議論をされていることでしょう。そして、物理探査学会のますますの発展を見守っていただられると思います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和四年二月

日本物理探査株式会社  
代表取締役 石田 定